



めぐみちゃん

農業委員会だより

西東京市の風と緑～

第15号

編集：発行 西東京市農業委員会
(保谷庁舎)

住所：西東京市中町1-5-1
TEL：042-438-4044(直通)

農業施策に関する 建議について

11月7日(木)に村田会長、農業委員14名が出席し、農業施策に関する建議書を市長に提出しました。今回の建議では、厳しい経済・社会情勢に対応できる農業の実現に向け、農業振興に関する多様な取り組みの推進及び農地保全を目的とした農地の有効利用促進の観点から、①市内農業に対する市民等の理解を深める取組の推進、②各種補助制度に係る効果の検証及び制度の見直し等、③都市計画審議に都市農業振興の観点を取り入れること、④生産緑地の再指定等、⑤都市農地の保全に欠かせない農業委員会の組織強化、⑥国等への要請の6項目の内容を盛り込んでおります。

建議書を提出した後、市長、副市長と懇談し、この中で、農業委員からは、納税猶予制度の課題・問題点、農地利用状況調査を実施しての所



感、安全・安心な農作物生産のための取組み、市の農業振興施策に対する要望など、活発な意見が出されました。



農業委員会会長としての 3年間を振り返って

農業委員会会長 村田 秀夫

平成23年1月に今期の農業委員会がスタートしてから3年、市の農業発展のため、本委員会は、積極的に活動してまいりました。

この間の主な活動内容として、農地法に基づく許可などの法令業務については、公平・公正性の確保

に努めるとともに、農地利用状況調査については、農地法改正に対応して、その調査方法や管理基準を見直し、調査後の資料もデータ化したしました。情報提供活動においては、年2回の「農業委員会だより」の発行に加え、新たにホームページを開設して情報の発信、申請書類のダウンロード化などの環境を整えました。

また、長年、市長への建議活動において要請してきました農業委員会から都市計画審議会委員への参画が本年度、実現いたしました。

研修活動においては、昨年、山梨へ日帰り視察研修、今年10月には、北海道「JAふらの」へ宿泊研修を行い、見識を高めると共に、委員相互の親睦を図ってまいりました。

私自身、会長として、その職の責任の重さを感じながら、さらに西東京市産業振興マスタープラン策定委員会をはじめとする市の8つの委員会の委員として、農地保全の有益性、農業の重要性を訴えてきました。今後は、さらに都市計画審議会委員としても、農業者の観点を都市計画に反映できるように努力してまいりたいと思います。

末筆になりますが、農業委員会の活動にご理解とご協力をいただきました皆様に感謝申し上げます。

西東京市民まつり

11月9日(土)・10日(日)の両日、第13回西東京市民まつりが、この森公園で盛大に開催され、2日間で昨年を上回る18万4千人の来場がありました。

農業部門では、毎年恒例の品評会が開催され、農業者が丹精込めて生産した624点の農産物が出展されました。

今年は、夏の猛暑の後、秋に入ると台風や大雨等の天候不順が続ぎ、生育の遅れも心配されましたが、その中でも農業者の方の努力により、とても素晴らしい農産物がそろいました。

また、「実りの秋」に収穫された野菜で作られた宝船も展示され、来場者の注目を集めていました。各生産団体からも、多くの種類の農産物が販売され、広く市内産農産物をPRする機会となりました。

品評会の主な受賞者は、次の皆様です。(敬称略)

野菜部門

東京都知事賞
プロッコリー 大谷 勝
東京都産業労働局長賞
下田 茂昭



東京都農業振興事務所長賞
ほうれん草 鈴木 智博
西東京市長賞
柿 海老澤 孫次
西東京市議会議長賞
キャベツ 大谷 勝
西東京市農業委員会会長賞
里芋 高橋 輝光



農のアカデミー
体験実習農園

市では、平成23年度、北町四丁目「農のアカデミー体験実習農園(約千七百平方メートル)」を整備し、24年度から運営を開始しております。ここでは、市が「都市と農業が共生するまちづくり事業」の一環として、市民の皆様実践形式で農業を体験していただき、農家の皆様のご苦勞や農業の重要性

をご理解いただくとともに、援農ボランティアの方々のスキルアップを図ることを目的とした事業を展開しています。また、指導農家及び運営ボランティアの協力を得て活動を行っています。

親子で野菜つくりにチャレンジ

9月8日(日)に種まき・植え付け、11月2日(土)に収穫の日程で、「農のアカデミー体験実習農園」において、市が主催する「親子で野菜づくりにチャレンジ」が、2名の農業委員の協力により行われました。今回は、20組40人の親子が参加し、市内の農業の話聞いた後、野菜の栽培方法の説明を受けてから、実際に種まき・苗の植え付け、収穫の作業を行いました。

今年は、作付けから間もなく、台風が襲われ、その後も大雨に見舞われたりと、生育が心配されました。その都度、指導する農業委員が手入れをされ、たくさんのかぶ、大根、白菜が育ち、親子での収穫を体験することができました。

この事業の中では、天候に左右

植木部門

東京都知事賞
櫻井 清一
東京都産業労働局長賞
ゼラニウム 濱中 昇一
東京都農業振興事務所長賞
常緑ヤマボウシ 栗島 博
西東京市長賞
甘夏ミカン 野口 秀晶
西東京市議会議長賞
アオダモ 新倉 健治
西東京市農業委員会会長賞
アセビ(赤花) 野口 秀晶

認定農業者制度

認定農業者制度とは、効率的で安定した魅力ある農業経営を目指



される農業の大変さ、また都市農業の担っている役割などの話にもふれ、参加者の皆さんに農業の大切さを理解していただく機会となりました。

農業体験農園
(きたつばら)体験記



芝久保町 齋藤 晶子
広い畑、包みこむように広がる空のもと、そこにいるだけで私は清々します。

畑には感動がいっぱい。種から芽が出る、お誕生：確か園主さんは、「野菜作りは子育てのように気を配りましょう」っておっしゃっ

す農業者が、自ら作成する農業経営改善計画を市の基本構想に照らして認定し、その計画達成に向けて支援していくものです。

市内には、現在48名の認定農業者があり、今年度は、平成20年度に認定を受けられた6名の方が、再認定を受けました。7月11日(木)、認定農業者認定書交付式が開催され、市長より認定書が交付されました。

制度内容などについては、生活文化スポーツ部産業振興課農業係までお問い合わせください。

緑のアカデミー

11月23日(土)、南町六丁目の小林孝一氏の敷地をお借りして、田無緑化組合の協力により、緑のアカデミーが開催されました。

多数の申し込みの中から抽選により選ばれた150人の市民が参加し、①植木ふれあい散策、②植木「プロの技」枝おろしと剪定パフォームンス、③市内で育った苗木を活用した樹木アレンジメント教室、④グリーン・プロ講習会といったプログラムにより、緑と職人の技を楽しんでいただきました。



ていました。また、「一粒一粒の種に平等の環境づくり」をとも。

身の丈の3倍〜5倍程もある深く暗い土の中から種はどのように地上を目指すのでしょうか、目も無いのに。試練もあったかもしれません。顔を出したばかりの芽には健気で愛おしい。地下では養水分を取りこむためのシステムが構築されていく、先遣隊は毛細血管のような細くやわらかな根、固い土を分け入って伸びていくとは、又なんてすごいことでしょう。こっそり覗き見したくって仕方がありません。畑は感動のエネルギーいっぱい。

かくして今年、胡瓜、茄子がよくなってくれました。鮮度、味、色いずれも絶品の野菜たち、自然に笑みがこぼれます。

また、「きたつばら」では共同作業も体験できます。原発事故のため初冬の堆肥作りはできなくなっしてしまい残念ですが、春の堆肥投入など賑やかに行われています。なんだか土に触れていると心の優しさと関節痛さえ忘れてしまします。魅力いっぱい畑に感謝です。そんな機会と、ご指導をくださる園主さん、ご家族の皆様感謝です。そして農業を大切に後押しする社会になって欲しいと思います。

めぐみちゃん メニュー事業

市では、市内産農産物を使用した飲食物(加工品・土産物などを含む。)を飲食店などの協力を得てメニュー化し、消費者などへ提供することにより農業振興を図るとともに、地域経済の活性化を促進することを目的に、今年度より「めぐみちゃんメニュー事業」を開始しました。

認定されるめぐみちゃんメニューは、市内産農産物を必ず1品以上使用することになっています。

また、めぐみちゃんメニューを提供するお店では、店内に出荷先の農業者の方の情報も表示しています。



例：「当店のめぐみちゃんメニューには、中町一丁目の西東京太郎さんが生産したキャベツを使用しています。」など。

市内で農業を営む方であれば、どなたでも本事業に参加することができます。「もっと多くの市民の方に、私たちが作った農産物を食べてもらいたい!」「西東京市の農業を盛り上げたい!」とお考えの方は、ぜひお問い合わせください。

★ ★
問い合わせ先

「めぐみちゃんメニュー事業」事務局(委託事業者である株式会社マインドシェア内に設置)

電話03(6823)1234(受付時間 平日午前10時~午後5時)

農業委員自主研修

10月7日(月)~8日(火)、北海道の上富良野町、中富良野町、富良野市、南富良野町、占冠村を区域とする「JAふらの」を訪ね、この地域における大規模農業経営の状況を伺うとともに、玉葱選果場等の施設を視察してまいりました。都市農業との違いを認識するとともに、今後の農業経営のための課題を得る貴重な機会となりました。



6班の編成を行い、各分担地区の農地を農業委員会で作成した肥培管理基準に基づいて、公正な観点で調査をしました。

日頃より、丁寧な肥培管理を行っている様子がうかがえる農地が大半を占める中、一部ではありませんが、肥培管理上、指導が必要な農地も見受けられました。

農業者の皆様には、ご協力をいただきありがとうございます。農業委員会では、引き続き、農地の適切な利用に対する助言・指導を行ってまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

編集後記

農業委員会だより第15号をお届けします。

農業委員会の活動を皆様により知っていただきたく、紙面の構成を見直してみました。が、いかがだったでしょうか。編集部会は、改選のため、今号が現メンバーでの最後の編集となります。

寒い日が続きますが、お体に気をつけて、よいお年をお迎えください。

編集委員一同

農地利用状況調査

10月21日(月)~10月23日(水)、農地利用状況調査(農地パトロール)を実施いたしました。